中部様式

令和３年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
及び地域公共交通計画の評価結果　概要（全体）

半田市地域公共交通会議

平成２８年１月２８日　設置

平成３０年３月３０日　半田市地域公共交通網形成計画策定
（計画期間：平成３０年４月～令和５年３月）

平成３０年６月１５日　フィーダー系統　　確保維持計画策定等

令和４年１月２０日　令和３年度評価結果送付

1.直近の二次評価の活用・対応状況

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
令和2年4月に改編したコミュニティバス、令和2年10月から新たに運行開始した岩滑小線について、利用状況等を分析し、今後の利用促進に繋げることを期待します。	改編したコミュニティバスは、コロナ禍で改編効果が見えづらい状況であったものの、結果として、大きな利用者増加には至らなかった。要因の一つとして、地元からは、バスの乗り方や運行ルートなどが分からず、利用に結びつかないといった課題が挙がっている。 岩滑小線は、毎月地元バス会と結果を共有し、隔月程度の頻度で開催するメンバー全員が集まるバス会議にてグループ討議を実施。バス停の乗降者数データから、利用の少ない地域への広報の強化や、乗り方が分からず利用に繋がらない方が一定数いるとの地元情報から、バスの乗り方を紹介するチラシの作成、広報を実施した。	・改編後のコミュニティバスについて、バスの乗り方やバス停周辺目的地までの移動方法等の情報に特化した広報（チラシ、回覧、出前講座など）を実施し、利用促進を図ります。 ・引き続き、地元バス会と協働して、日々の広報活動（地元広報誌や回覧など）やお得な乗車イベントを実施します。 ・一定期間の市コミュニティバス無料乗車キャンペーンを実施し、市民（子どもから高齢者まで）の目を惹くことで、バス利用の需要開拓を実施します。
コミュニティバスが運行していない地区において、引き続き地域協議会で検討されるとともに、地域に合った交通手段が導入されることを期待します。	岩滑小線に続き、鉄道主要駅や病院、買い物等地域住民のおでかけニーズを反映した成岩東部線、瑞穂線の運行を開始し、公共交通の充実を図りました。	・各バス会での協議（課題分析や対応策など）を継続し、取組の向上を図ります。

2.協議会等が目指す地域公共交通の姿　（Plan）

■ 地域特性と背景

・人口は約11.7万人（令和2年国勢調査）、半田市人口ビジョンでは減少する見込み

・鉄道2本（JR武豊線・名鉄河和線）が市中心部を南北に縦断しており、高速道路が南北と西方面に走っており、半島という地理的条件下においても市域間移動の環境は比較的恵まれている。

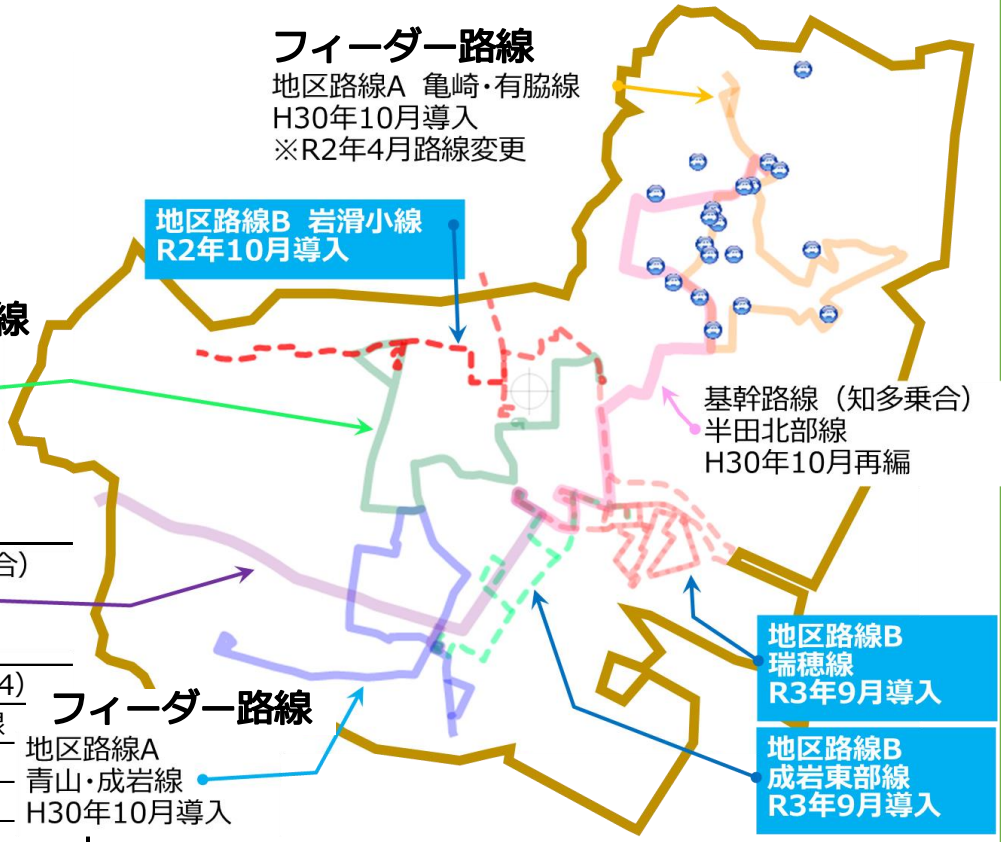
・ バス交通は民間バス自主路線に頼る状況が続いていたが、利用低下を背景に平成30年10月に大幅な再編を行い、知多乗合㈱6路線を2路線に統廃合し基幹路線とし、地域路線として市運営（運行委託）の３路線（フィーダー）を新規に導入。また、令和2年10月、令和3年9月には新たな地域路線を導入し、交通空白地域の解消を目指し公共交通環境の構築に取り組んでいる。

■ 方針・目標・期間

H30～R4　５か年

全体目標	「おでかけ環境が充実した　住み続けたいまち　半田」の実現
基本方針１	半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編
基本方針２	半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実
基本方針３	各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保
基本方針４	関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築

年月	内容
平成28年１月	半田市地域公共交通会議　設置
平成28年５月	半田市地域公共交通条例　制定
平成30年３月	半田市地域公共交通網形成計画　策定（５か年H30～H34）
平成30年10月	公共交通の再編 基幹路線バス２路線、地区路線バス３路線
令和元年	市内４地区で住民主導の「バス会」を設立
令和２年10月	バス会との協働による公共交通の拡大 地区路線バス１路線
令和３年９月	バス会との協働による公共交通の拡大 地区路線バス２路線



■令和２年１０月～令和３年９月の取組

○交通空白地域の解消等に向けた住民主導のバス会の設立・運営支援・各種活動（４地区）
○新たな地区路線の導入（３地区）
【令和2年10月～、令和3年9月～（2地区）】
○上記路線で使用できる
お得な回数券の作成【令和2年10月～】

回数券100円券12枚綴（1,000円）

岩滑小線（ごん吉くんバス）

瑞穂（さくら）
バス会議

- 新たな公共交通手段の導入を要望する交通空白地域で「地区バス会」を設立し、導入の必要性や運行形態について同会を検討の場として活動。
- 地区バス会の委員は有志で構成。アドバイザーに区長、地元議員などに参画してもらい、地域内での公平性を担保（行政は協働の立場で参画）。
- 本地区バス会の制度は、住民主導により地元のニーズを反映した運行形態等を設定することのできる点が最大の特徴・魅力。
- 導入までには、1年以上前から、バス会による協議・準備が進められ、バス会主導のもと、当該自治区民への住民アンケート（全戸）でのニーズ調査や地域住民への説明会、バス停予定箇所の土地所有者との交渉等を実施することで、地域との合意形成を図りながら、円滑に路線バスの導入を図ることができた。
- 令和2年10月～**地区路線Ｂ岩滑小線**、令和3年9月～**地区路線Ｂ成岩東部線・瑞穂線**が**運行を開始**。
- 地区路線Ｂにおいて、車いすに乗ったまま乗降する必要のある方については、事前予約により、車いすに乗ったまま乗降することのできる車両を手配する制度設計としている。
- 令和3年12月現在、**岩滑、成岩東部、瑞穂、有脇**の４地区にてバス会が設立されており、バス路線等の導入後も、毎月の実績共有に加え、2か月に1回程度の頻度で会議を開催し、課題等の協議や対策等の実施を継続している。
- 利用者向上のための日々の普及啓発（口コミ、チラシ、回覧、地元広報誌掲載、学校や老人会等各種団体、民生委員への広報）や乗車イベント企画（スピードくじ）を実施した。

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容　（Do）

○交通結節点となる半田図書館及び名鉄青山駅バス停に待合シェルターを設置【令和3年3月】

半田図書館
博物館バス停

青山駅
バス停

複数の路線・公共交通機関が結節する「半田図書館・博物館」バス停、「青山駅」バス停にバスシェルターを設置し、バス利用者の待合環境の向上を図った。

○新型コロナウイルス感染症対策で地区路線バスへ光触媒コーティング【令和2年12月】

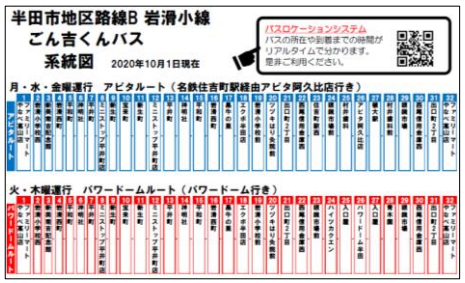
換気や清掃、アルコール消毒等の徹底に加え、より安全性の高い予防を目的に、光触媒を用いた車内の抗ウイルス・抗菌コーティングを実施した。

施行風景

○バスロケーションシステムの継続導入【令和元年10月、令和2年10月、令和3年9月～】
○システム利用の普及・啓発（市HP、市報、バス停掲示、地域への回覧、）

半田市HP

←バス停掲示↑



広報チラシ→

新規路線にも、運行開始とともにシステムを導入。また、市HPや市報、バス停掲示での全市的な広報に加え、バス会を通じたチラシ配布や口コミ等による地元広報も実施した。

○大型商業施設でバス展示による周知、情報発信【令和2年10月】

イオン半田店の周年イベントにバスブース出展。乗入を行う右記車両ごんくる（青山・成岩線）への乗車体験を通じて、バスの乗り方や、市全体バス路線の普及・啓発を実施。
また、武豊町さんとの隣接ブースにより、相互乗継の情報発信も実施。

商業施設での乗車体験と情報発信

○市出身アイドル（MAG!C☆PRINCE）の地区路線Ｂ体験乗車とSNSで情報発信【令和3年10月】

■市内のバス利用者人数

単位（人/前年10月～9月）

種別	路線名	利用者数 実績値 R1	R2	R3
地区路線A	亀崎・有脇線	11,705	10,507	10,275
	半田中央線	34,218	31,250	32,034
	青山・成岩線	33,364	29,885	28,134
	合計	**79,287**	**71,642**	**70,443**

【結果・考察】
・市委託の地区路線バスは開始以降概ね堅調に推移するも、利用者が減少。通勤や買物・飲食を目的とする利用者が多く、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける形となった。
・コロナ禍であったものの、路線改善を実施した亀崎・有脇線は結果として利用増とはならなかった。
・知多バス（半田北部線、半田・常滑線）も利用増で推移するも、空港や通勤・通学利用者が多く、市バス同様大きな影響を受け、利用者が減少した。

【対応方針】
・コロナ禍でのバス利用の需要開拓を目的とした企画の実施
・バスの乗り方や目的地までの移動方法等の分かる広報の実施

単位（人/年度）

		運行	路線名	利用者数 実績値 H30	R1	R2
再編前（～H30.9）		知多乗合（株）	上池線	29,524	-	-
			有脇線	10,971	-	-
			亀崎線	10,599	-	-
			鴉根線	9,229	-	-
			花園線	1,617	-	-
			常滑線	66,246	-	-
再編後（H30.10～）	基幹路線	知多乗合（株）	半田北部線	104,104	245,769	144,905
			半田・常滑線	69,706	115,290	92,345
	地区路線A	市から委託 知多乗合（株）	亀崎・有脇線	5,842	11,681	9,719
			半田中央線	14,927	37,294	28,854
			青山・成岩線	14,673	37,009	24,810
	地区路線B	R2.10～運行 市から委託 つばめ交通（協組）	岩滑小線	-	-	2,500
		R3.9～運行 市から委託	成岩東部線	-	-	-
			瑞穂線	-	-	-
			合計	337,438	447,043	**303,133**

単位（人/日）

路線名	利用者数 実績値 H30 全体	H30 内訳	R1 全体	R1 内訳	R2 全体	R2 内訳	目標値 R2 再設定	達成率
上池線	697	161						
有脇線		59						
亀崎線		57						
鴉根線		50						
花園線		8						
常滑線		362						
半田北部線	1,149	572	1,219	671	**842**	397	**1,101**	**76.5%**
半田・常滑線		383		315		253		
亀崎・有脇線		32		31		26		
半田中央線		82		101		79		
青山・成岩線		80		101		67		
岩滑小線		-		-		20		
成岩東部線		-		-		-		
瑞穂線		-		-		-		

計画策定当初の目標値（R4.2,700人/日）は、交通網再編前のバス利用状況ｱﾝｹｰﾄ結果を基にした数値で、すべてのバス路線で収支率25%超を達成しても届かない理想値であったため、R2の公共交通会議にて、実績との乖離是正について協議を行い再設定を行った。

4.計画の達成状況の評価指標とその結果　（Check）

■公共交通で目的地に行くことができる割合の増加

対象	12歳以上の市民3,000人（無作為）
方法	郵送回収
時期	R2.11.12～23
回収数	1,220通

目標とする指標	目標値[R4]	現況値[R2]	現況値[H28]
公共交通で目的地に行くことができる割合	市平均67%	市平均74%	市平均51%

対象	ごんくる3路線、知多バス2路線
方法	車内での配布・郵送回収
時期	R2.10.29～11.1
回収数	727通

目標とする指標	目標値[R4]	現況値[R2]	現況値[H28]
公共交通利用者の満足度	30%以上	31%	17%

【結果・考察】

・R2.11に実施した市民アンケートでは、上記のとおり、公共交通で目的地に行くことができる割合が51%[H28]→74%[R2]、同時期実施のバス利用者アンケートでは、公共交通利用者の満足度が、17%［H28］→31%［R2］となり、R4目標値を上回る結果となった。これは、再編以降の路線改善や拡大、利用環境の向上、日々の利用促進策の取組の成果によるものと考える。

・バスの運行自体の認知度は高まるも、最寄バス停や運行ルート等を把握している割合は高くない。また、バス利用者の6割弱が高齢者（65歳以上）となっている。引き続き、公共交通の関心を高め、移動手段の選択肢とするきっかけづくりが必要。

【対応方針】

・地元バス会と協働した広報活動の実施

・子どもと保護者世代のバス利用の早期習慣化と将来的な利用増を目的としたバスの運賃改定

・交通空白地域における住民ニーズに沿った公共交通のあり方についての協議・検討

5.自己評価から得られた課題と対応方針　（Act）

課題	対応方針
【利用促進】 コロナ禍での利用者の減少抑制、利用者増加の工夫	バス利用の需要開拓を目的とした企画として、**一定期間の無料乗車キャンペーン**を実施。市民（子どもから高齢者まで）の目を惹き、新たな生活様式の中に公共交通バスを取り入れるきっかけづくりを行う。また、若い世代を対象とした**運賃改定（小学生無料）**を実施し、子どもと保護者世代のバス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。【R4中】
【認知度・満足度向上】 拡大中の公共交通網の市民の認知度、満足度の向上	公共交通に関心を持ち、（継続）利用につながるようなPRを行うため、**（子どもから高齢者まで）だれでも参加できるお得な乗車キャンペーン（スピードくじ等）**等を実施し、認知度、満足度の向上を図る。【R4以降継続実施】
【交通空白地域解消】 日常の生活圏域における、住民のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの充実	残存する交通空白地域（旧知多バス路線が運行し、再編に伴い路線撤退したエリア）においても、引き続き、**バス会の運営支援**を実施し、地域のニーズや特性に合った公共交通手段の確保を図る。 【R4以降継続実施】
【既存路線の見直し】 低調により改善（R2.4）を図った亀崎・有脇線の広報の強化 半田中央線、青山・成岩線の改善	当該地区の住民とともに**バスの乗り方やバス停周辺目的地までの移動方法等の情報に特化した広報**を実施し、利用促進を図る。【R4以降継続実施】 遅延の是正や他のバス路線、鉄道との接続など、環境に合わせたダイヤの見直し検討を進める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和3年12月28日

協議会名： 半田市地域公共交通会議

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合（株）	半田市地区路線バスごんくる「亀崎・有脇線」 日本福祉大学～亀崎駅～日本福祉大学	・複数の路線や公共交通機関が結節するバス停にバスシェルターを設置し、バス利用者の待合環境の向上を図った。 ・バスが今どこにいるか、あと何分で到着するか等運行状況をリアルタイムで確認できるバスロケーションシステムについて、市HPや市報、バス停掲示での全市的な広報に加え、バス会を通じたチラシ配布や口コミ等による地元広報を実施し、バス利用者の待合環境の向上を図った。 ・コロナ禍でバス利用者が減少する中、少しでも安全・安心にバス利用できるよう、対象車両内の抗菌・抗ウイルスコーティングを実施した。 ・改編した路線を含む市内バス路線については、コロナ禍で積極的な外出（利用）促進が難しい中、出前講座や地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用して普及・啓発を図った。	A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「亀崎・有脇線」の維持・確保を実施。	B	令和3年9月末時点の平均利用者数は28人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和2年度目標値71人を下回ったが、日々の普及・啓発に加え、R2年10月のイベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、利用者の大幅な減少を食い止めることができたものと考える。 通勤や通院・お見舞いなどを中心に日々の暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない公共交通の基盤維持を図ることができた。	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であり、以下のとおり、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出（利用）促進策を併せて実施していく。 ・無料乗車キャンペーンなどバス利用の需要開拓を目的とした企画を実施し、市民（子どもから高齢者まで）の目を惹くことで利用促進を図る。 ・若い世代を対象とした運賃改定（小学生無料）を実施し、子どもと保護者世代のバス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。 ・バス利用に関心を持ち、（継続）利用につながるようなPRを行うべく、バスの乗り方やバス停周辺目的地までの移動方法等の情報に特化した広報を行い、利用促進を図る。
知多乗合（株）	半田市地区路線バスごんくる「半田中央線」 パワードーム半田～知多半田駅～新美南吉記念館		A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「半田・中央線」の維持・確保を実施。	B	令和3年9月末時点の平均利用者数は88人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和2年度目標値93人を下回ったが、日々の普及・啓発に加え、R2年10月のイベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、利用者の大幅な減少を食い止めることができたものと考える。 により、買物・飲食や通勤などを中心に日々の暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない公共交通の基盤維持を図ることができた。	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であり、以下のとおり、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出（利用）促進策を併せて実施していく。 ・無料乗車キャンペーンなどバス利用の需要開拓を目的とした企画を実施し、市民（子どもから高齢者まで）の目を惹くことで利用促進を図る。 ・若い世代を対象とした運賃改定（小学生無料）を実施し、子どもと保護者世代のバス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。 ・特定時間帯においてダイヤの遅延が生じることから、他のバス路線や鉄道との接続を考慮したうえで、環境に合わせたダイヤの見直し検討を進める。
知多乗合（株）	半田市地区路線バスごんくる「青山・成岩線」 君ケ橋住宅～青山駅～君ケ橋住宅		A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「青山・成岩線」の維持・確保を実施。	B	令和3年9月末時点の平均利用者数は77人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和2年度目標値92人を下回ったが、日々の普及・啓発に加え、R2年10月のイベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、利用者の大幅な減少を食い止めることができたものと考える。 通勤や買物・飲食などを中心に日々の暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない公共交通の基盤維持を図ることができた。	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であり、以下のとおり、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出（利用）促進策を併せて実施していく。 ・無料乗車キャンペーンなどバス利用の需要開拓を目的とした企画を実施し、市民（子どもから高齢者まで）の目を惹くことで利用促進を図る。 ・若い世代を対象とした運賃改定（小学生無料）を実施し、子どもと保護者世代のバス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。 ・結節点の青山駅における他のバス路線や鉄道との接続について要望する声があることから、環境に合わせたダイヤの見直し検討を進める。

（別添１－２）

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年12月28日

協議会名：	半田市地域公共交通会議

評価対象事業名：	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	・半田市では、「おでかけ環境が充実した　住み続けたいまち　半田」を交通将来像として掲げ、以下の基本方針に沿って目標の実現を図ります。 ①半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編 ②半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実 ③各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保 ④関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築

別添４

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

半田市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和２年１０月～令和３年９月）

<table>
<tr><th>目標</th><th>目標を達成するための取組</th><th>調査方法</th><th>達成状況・分析</th><th>評価・次年度に向けた課題や取組</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>市内の路線バス利用者数1,100人/日（平成28年度）
→2,700人/日（令和4年度）
※目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した目標値
1,101人/日（令和2年度）</td><td rowspan="3">・路線の大幅再編
・交通空白地域の解消
・バス環境の向上
・地元バス会と協働した普及啓発</td><td>運行事業者の有する乗降データ及び実績値を用いて計測</td><td>【目標未達成】842人（R2年度実績）

新型コロナウイルス感染症等の影響により、前年より利用者減となった状況下においても、基幹路線（知多バス）、地区路線Ａ（ごんくる）３線に続く地区路線Ｂ３線を新規導入し、交通空白地域の解消と路線網全体の活性化を図ったことが、大幅な利用者減少を抑制したものと分析している。</td><td rowspan="3">・利用者減が続くコロナ禍において、バス利用の需要開拓を行うため、一定期間の無料乗車キャンペーン企画を実施し、市民（子どもから高齢者まで）の目を惹くことで、新たな生活様式の中に公共交通バスを取り入れるきっかけづくりを行う。
・アンケート結果は向上したものの、まだまだ、最寄バス停や運行ルート等の認知度は高くなく、バス利用の6割弱が高齢者であることから、公共交通に関心を持ち、（継続）利用につながるようなPRを行うべく、地元バス会と協働し、バスの乗り方やバス停周辺目的地までの移動方法等の情報に特化した広報を実施する。
・若い世代を対象とした運賃改定（小学生無料）を実施し、子どもと保護者世代のバス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。
・残存する交通空白地域への取組として、引き続き、住民ニーズに沿った公共交通のあり方について協議・検討を進めていく。</td><td></td></tr>
<tr><td>公共交通利用者の満足度17%（平成28年度）
→30%以上（令和4年度）</td><td>市民アンケートを実施し、集計</td><td rowspan="2">【目標達成】満足度31%（R2.10実施利用者アンケート）
【目標達成】目的地に行くことができる割合75%（R2.11実施市民アンケート）

目標値を上回る結果となったのは、H30.10の再編以降の路線改善や路線拡大、利用環境の向上、日々の利用促進策の取組成果と分析している。</td><td></td></tr>
<tr><td>公共交通で目的地に行くことができる割合51%（平成28年度）
→67%（令和4年度）</td><td>市民アンケートを実施し、集計</td><td></td></tr>
</table>

（記載に当たっての留意事項）

- 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。